

一人ひとりが自立し、ともに生きる力をどう育てるか

—自分らしく生きることを考える実践を通して—

I 研究の概要報告

II 実践報告

「多様な意見を認め合いながら協働的に活動し、よりよい社会をめざす子どもの育成」

III 研究のまとめ

第16分科会
両性の自立と平等をめざす教育

端地 久美子（名古屋・山吹小）

I 研究の概要報告

1 愛知の「両性の自立・平等教育」

「両性の自立・平等教育」は、「ジェンダー平等教育推進委員会」の提言をもとに、人権教育の一環として子どもの自立をめざした教育の研究をすすめてきた。近年「男女共同参画社会」という言葉も世の中に浸透し、女性の社会進出はめざましく、育児・介護にかかわる制度も充実してきている。また、男性が「主夫」として働いたり、育児休業を取得したりというように生き方も多様化している。反面、依然として旧来の性別による固定観念が残っており、少なからず子どもたちに影響を与えていると考えられる。価値観が多様化した現代だからこそ、性別にとらわれることなく、子どもたちには自分に自信をもち、自分らしさを大切にしたい生き方をしてほしいと願っている。

そこで、子どもたちが性別にとらわれずに友だちのよさを認め、自分のよさにも気付いて自信をもつことのできる子、また、自分の考えをもち行動する力を身につけることで、自分らしい生き方ができる子をめざしてテーマを設定した。

- 2 **テーマ** 一人ひとりが自立し、ともに生きる力をどう育てるか
—自分らしく生きることを考える実践を通して—

3 研究のねらい

「男女共同参画社会」とは、一人ひとりが互いにその人権を尊重しつつ、責任を分かち合い、性別にとらわれることなく、その個性と能力を發揮できる社会である。現代社会において、一人ひとりが輝いて豊かに生きるためには、それぞれが一人の人間として、自分らしく生きることが大切である。

研究対象である小学校4年生は、集団の活動目標の達成に主体的にかかわったり、協働的な活動にとりくんだりして、子どもたちどうしで知恵を出し合いながら、計画的に活動ができるようになり、主体性も増してくる時期である。また、男女によって体つきの違いや活動内容などの違いが見られるようになり、男女間の問題や心の葛藤も生じやすくなる時期である。

学校教育においては、子どもたちがさまざまな変化に対応し、一人ひとりが自他の考えを尊重するとともに、他者と協働して課題を解決しながら、よりよい社会をめざして生きていくことが求められている。この時期に、さまざまな活動において、友だちとのかかわりを通して自分を見つめ直す場を設定することは、自分らしく生きる姿勢につながると思う。そこで本研究を通して、友だちの意見を認め、多面的・多角的に考える力や、自分らしい生き方やよりよい社会とは何かと考える力を育みたい。そして、一人ひとりが自分は大切な存在であると実感し、自らのよさを發揮して、互いに認め合いながら協働的に活動することができる子どもを育てていきたい。

4 研究の方法

- (1) 自立の教育にむけての実態調査
 - ・ジェンダーやLGBTQ+についての認知度調査
 - ・男女平等に対する意識調査
- (2) 授業実践 小学校4年生(学級活動 体育科 総合的な学習の時間 国語科)
「多様な意見を認め合いながら協働的に活動し、よりよい社会をめざす子どもの育成」
- (3) 啓発活動
 - ① 教員への啓発活動
 - ・「愛知母と女性教職員の会」での提案及び分散会における話し合い
 - ・「女性部報」、機関誌「はりみち」への関連記事掲載
 - ・単組・支部での学習会
 - ② 保護者への啓発活動
 - ・「愛知母と女性教職員の会」での提案及び分散会における話し合い
- (4) まとめ
 - ・成果と今後の課題

II 実践報告

1 授業実践のテーマ

「多様な意見を認め合いながら協働的に活動し、よりよい社会をめざす子どもの育成」

2 子どもの実態

本学級の子ども（小学校4年生30人）は、調べ学習や係活動などに興味をもって取り組むことができる。しかし、話し合い活動では、自分の考えに固執してしまい、友だちの意見を受け入れられない子どももいるという実態がある。

本校では、全学年がSDGsに関する探究活動に取り組んでいる。本年度は、「総合的な学習の時間」でSDGsの目標の一つである「ジェンダー平等」に焦点をあて、学級活動、体育科（保健）、国語科と組み合わせた教科等横断的な学習をすすめていくことにした。まず、実態調査として、以下の質問紙にとりくませた。

[ジェンダー平等についての質問紙（N=30）]

- 質問① 「ジェンダー」という言葉を知っていますか。 （はい・いいえ）
質問② 「LGBTQ+」という言葉を知っていますか。 （はい・いいえ）
質問③ 男女は平等だと思いますか。（はい・どちらかというとはい・どちらかというといえ・いいえ）
質問④ 質問③で（いいえ・どちらかというといえ）と答えた人は、男女が平等になるためには、どのようなことが大切だと思いますか。（自由記述）

質問①『「ジェンダー」という言葉を知っていますか』では、「はい」と答えた子どもは3人であった。質問②『「LGBTQ+」という言葉を知っていますか』では、「はい」と答えた子どもはいなかった。質問③「男女は平等だと思いますか」では、18人の子どもが「はい」「どちらかというとはい」と答えた。理由を尋ねると「男子も女子も関係なく一緒に遊ぶから」という内容が多かった。また、12人の子どもが「いいえ」「どちらかというといえ」と答えた。理由としては、「男子と女子は意見が合わないから」や「男子と女子は性格が違うから」、「クラスの中の男女の人数が違うと多い方の意見が通りやすいから」などをあげていた。さらに、質問③で「平等ではない」と回答した子どもに、「男女が平等になるためには、どのようなことが大切だと思いますか」という記述には、「男女なかよくする」、「男子でも女子でも誰でも入れるように遊ぶ」という内容があった。

以上の実態調査の結果から、子どもたちには、ジェンダーに関する知識はなく、男女平等に関する判断は、子どもたち自身の身の回りの出来事が基準となっていることがわかった。また、男女なかよくすることが、男女平等のために大切なことだと考える子どもが多いこともわかった。

このようなことから、子どもたちには、まず、ジェンダーに関する正しい知識を得た上で、平等とは何かという問いに対して友だちの意見に耳を傾け、多面的・多角的に話し合い、考えを広げたり、深めたりする機会が必要であると考えられる。そして、性別にかかわらず、一人ひとりが個性と能力を発揮するために、「将来めざしたい社会」や「めざしたい社会を実現するために自分にできること」をじっくりと考えさせたい。

3 めざす子ども像

- 友だちの意見を認め、多面的・多角的に考えることができる子ども
- 自分らしい生き方やよりよい社会について、考えることができる子ども

4 実践の手だて

手だて① 友だちの意見を認め、多面的・多角的に考えることができる子ども

○ 話し合いの場の工夫

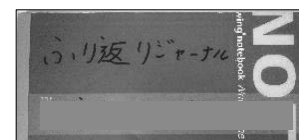
- ・ 子どもが自分の意見を発言することができるように、隣どうしで考えを伝え合うペアトークの時間を設ける。ペアトークでは、「質問の技カード」を活用して、互いに考えを掘り下げることができるようにする。
- ・ 学級全体の場で意見を伝えることができるように、円になって意見を伝え合う「サークル対話」を取り入れ、多様な意見を聞く機会を増やす。



【サークル対話の様子】

○ 振り返りの場の設定

- ・ ジェンダー平等にかかわる学習内容や話し合いを通して、自分の考えの変容を振り返ることができるように、感想や意見を『振り返りジャーナル』に書かせる。
- ・ 多様な意見に気付いたり、自分の考えを広げ、深めたりすることができるように、『振り返りジャーナル』の記述内容を教員が取り上げたり、タブレットを用いたりして共有する『わくわくタイム』を設ける。



【振り返りジャーナル】

手だて② 自分らしい生き方やよりよい社会について、考えることができる子ども

○ 知識を得るための場の設定

- ・ 社会的・文化的な性の役割に関する問題を知り、「ジェンダー平等」への興味関心を高めることができるように、ジェンダーに関する絵本の読み聞かせをしたり、子どもがいつでも読めるように本のコーナーを設置したりする。
- ・ 生物学的な性の違いを知るために、体育科（保健）「体の成長とわたし」の学習で、年齢とともに成長する体と心の変化や男性と女性の体つきの違いを学習する。
- ・ 「LGBTQ+」に関する正しい知識を身につけ、自分らしい生き方やジェンダー平等が実現されるためにめざす社会について考えることができるように、外部講師を活用し、LGBTQ+の方や詳しい方の話を聞く機会を設ける。

○ 性別に対する思い込みを見直すための教材の工夫

- ・ 子どもが、性別に関する固定観念に気付いたり、他者への理解を深めたりすることができるように、ジェンダー平等に関する教材を用いて、「自分らしさ」や「よりよい社会」とは何かをみんなで考え、話し合う。

5 実践計画

時期	学習活動
4月	実態調査① ※ 質問紙による実態調査
5月	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>常時活動</p> </div> <div style="width: 65%;"> <p>授業実践①【学級活動】 「居心地のよい学級づくりをしよう」</p> </div> </div>
6月	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>手だて①</p> <p>【学級活動】「絵本の読み聞かせ」</p> <p>「ジェンダー平等に関するテーマで話し合い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアトーク ・ サークル対話 ・ ふり返りジャーナル ・ わくわくタイム </div> <div style="width: 65%;"> <p>授業実践②【体育科(保健)】 「体の成長とわたし」</p> <p>授業実践③ 【総合的な学習の時間】 「SDGs 今、わたしにできること」 (外部講師による出張授業)</p> </div> </div>
7月	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"></div> <div style="width: 65%;"> <p>授業実践④-1 【総合的な学習の時間】 「SDGs 今、わたしにできること」(探究活動)</p> <p>授業実践④-2 【国語科】 「新聞をつくろう」</p> <p>授業実践④-3 【総合的な学習の時間】 「SDGs 今、わたしにできること」</p> </div> </div>
	<p>実態調査②</p> <div style="text-align: center;"> <p>「多様な意見を認め合いながら協働的に活動し、よりよい社会をめざす子どもの育成」</p> </div>

6 抽出児童について

4月の実態調査をふまえて2人を抽出児童とし、実践の成果と課題を検討することにする。

(A)

- ・ 「ジェンダー」という言葉と意味を知っている。
- ・ 性別で決めつけられてしまうことに疑問を感じているという理由から、「どちらか」というと男女は平等ではない」と回答。

(B)

- ・ 男女は違うところが多く、平等ではないと考えている。
- ・ 男性どうしが結婚する絵本に対して嫌悪感を示していた。
- ・ 小さい頃、自分の性に対して疑問を抱いていた時期がある。

7 実践の様子

常時活動【学級活動】「絵本の読み聞かせ」

(1) 性別に対する思い込みを見直すための教材の工夫

小学生がランドセルを背負って登下校をしている様子のイラストに色を塗らせてみた。その後、ジェンダー平等に関する絵本を読んだ。まとめの活動として、サークルになって、絵本の感想や自分の好きな色を伝え合った。



【色塗りをする子どもの様子】



【絵本の感想や好きな色を伝え合う様子】

【ふり返りジャーナルより】

(A) 自分もピンクより黒や白、茶色が好きで、周りの子はピンクやひらひらした服だったから小さい頃は一人ぼちな感じがしていた。絵本の主人公やクラスの中に、自分と同じような子がいて安心した。

(B) 絵本の子に少しだけ共感できた。

考察 イラストの色塗りでは、予想通り多くの子どもが、男の子の服装や持ち物を青色や水色、女の子の服装や持ち物を赤色やピンク色で塗っていた。絵本の読み聞かせの感想では、共感する子や性別で決めつけられることへ嫌悪感を示す子がみられた。『ふり返りジャーナル』の記述より、好きな色は性別に関係なく人それぞれ自由であることや、無意識に男の子の色・女の子の色と決めつけていたことに気付かせる機会になった。

(2) 知識を得るための場の設定

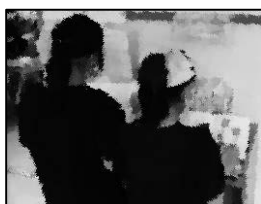
学校司書に依頼をし、学校の図書室や公共の図書館にある「ジェンダー」や「LGBTQ+」に関する本を選んでもらい、朝の時間に教室で絵本の読み聞かせをした。学校司書の方には週1回、図書室で読み聞かせをしてもらった。紹介した本は、子どもがいつでも読めるように廊下の棚に並べ、『レインボーコーナー』と名付けて常設した。また、本を読んだ感想を付箋に書いて貼るスペースをつくり、子どもたちの考えや意見を共有できるようにした。付箋には、初めて知ったことやこれから気をつけたいことが書かれていた。

【付箋の記述内容】

- ・ 体は男だけど、心は女っていうことにびっくりした。「変なの」と思ったり、言ったりしないようにしたい。
- ・ お父さんがいなくて、お母さんが二人いる家族は不思議だったけど、楽しくて明るくなる話だった。みんなにも読んでほしい。
- ・ 女だからとか男だからといって、差別することで嫌な気持ちになることがわかった。



【学校司書による絵本の読み聞かせ】



【『レインボーコーナー』で本を読む子ども】



【本を読んだ感想を付箋に書いて貼れるスペース】

考察 「ジェンダー」や「LGBTQ+」という言葉を知らない子どもや、何となく意味は調べてわかった子どもも、絵本を通して、多様性とは何かというイメージがもてたり、ジェンダーによる男女の差別で辛い思いをしている人への理解を深めたりすることができた。絵本を読んだ感想を付箋に書いて共有したことで、友だちの多様な考えを知る機会にもなった。

授業実践①【学級活動】「居心地のよい学級づくりをしよう」

〈イメージマップづくり〉

4年生がはじまり、数週間が経った頃、理科でツルレイシの観察を班で行う活動や、社会科で校内の蛇口の数を調べる活動、清掃活動などで「男子が!」「女子ってさ!」という不満を訴える声が聞こえてきた。そこで、授業で「男子は…」「女子は…」で思いつく言葉でイメージマップをつくった。黒板に書く際に、子どもたちは、次から次へとイメージするキーワードを発表した。その度に、他の子から共感する声や反対する声が上がった。意見がすべて出たところで、全部自分に当てはまるかどうか、また、男子なら女子の、女子なら男子のイメージマップを見て、当てはまることはないかを考えた。



【「男子は…」「女子は…」のイメージマップ】

【子どもの反応】

「男子はやっぱり危険なことをやるよね」「ぼくは違うよ」
 「私も買物が好き」「女子もゲームをするよ」「私はうわさ話はしないよ」
 「どっちかっていうとぼくもきれい好きだけど」 など

【ふり返りジャーナルより】

- (A) 自分も同じように家で、性別で決めつけられて言われることがある。
何でそんなこと言うんだろうと思う。言わないでほしい。
- (B) 小さい頃、かっこいいものが好きだったから、自分は、違う性別なのではないかと思っていた。
みんなの意見を聞いて、男女関係なく自分が好きなようにしたらいいと思った。

考察 「男子は…」「女子は…」で思いつく言葉でイメージマップを黒板に書くと、子どもたちは、日常生活の中には性別のイメージで決めつけていることが多く存在することに気付いた。そのイメージは、自分を含め、みんなに当てはまることではないことに気付かせることができた。自分は、「男子だから」「女子だから」と決めつけられたくないと思っているのに、他者に対して無意識に性別のイメージで決めつけていないかを振り返る機会になった。また、性格や好きなものに性別は関係ないということに気付かせる機会になった。

授業実践②【体育科（保健）】「体の成長とわたし」（1/4）

授業のはじめに青色の服を着た赤ちゃんの人形を見せ、「生まれたばかりの赤ちゃんに名前を付けようと思うけど、どんな名前がいいと思いますか」と子どもたちに尋ねた。子どもたちは口々に男の子を連想した名前を発表した。しばらくすると、一人の子が「その子って男の子？」とつぶやいた。「男の子でしょ、青い服を着ているから」「青色だからって男の子って決められないよ」「たしかに、そうかも」という意見が出た。その後、人形が女の子であることを伝えると、「女の子の赤ちゃんに青色を着せるのは変だよ」「男か女はもっと大きくならないとわからないと思う」という反応だった。これをふまえて体育科（保健）の授業で、体と心の成長、男性と女性の体つきの違いを学習した。



【ふり返しジャーナルより】

- (A) 青色の服を着ているからといって、男の子と決めつけたらだめだと思った。
- (B) 町では、男だけ女の子の服を着ている人もいるかもしれないと思った。

考察 絵本の読み聞かせや男子と女子のイメージマップをつくった後は、多くの子が「色や性別のイメージで決めつけないようにしたい」と感想で書いていた。しかし、青色の服を着た赤ちゃんを見たときには、男の子と判断する子がほとんどだった。しかし、「その子って男の子？」という、ある子のつぶやきに対して、「たしかに」や「女の子かも」と決めつけていた自分に気付く子もいた。子どもたちは、少しずつ「ジェンダー平等」の視点をもって話し合うことができていた。

授業実践③【総合的な学習の時間】「SDGs 今、わたしにできること」（外部講師による出張授業）

NPO 法人の方を講師に招いて授業を行った。「自分らしさとは何か」というテーマで、LGBTQ+の方から子どもの頃の話や辛かった体験、家族や友だちに言われてうれしかったことなどの話を聞き、性の多様性について知ることができた。また、LGBTQ+の子どもをもつ母親の方からも話を聞くことができ、自分にできることは何かを考えるきっかけになった。話を聞いた子どもたちは、意欲的に質問をしていた。

【子どもの質問】

- ・名前は改名したのですか。
- ・なぜ、声が低くなったのですか。
- ・子どもの頃に見ていたテレビは何でしたか。見るテレビは変わりましたか。
- ・仕事は何をしていますか。
- ・トイレは男性用と女性用のどちらを使いますか。 など

【ふり返しジャーナルより】

- (A) 差別になる言葉を言わないようにして、これからは誰もが LGBTQ+ の理解者である「ALLY」になる社会になるといったと思った。自分も「ALLY」になれるようにがんばりたい。
- (B) 自分も周りの人に、からかわれて嫌な思いをしたことがある。LGBTQ+ の人の辛さがわかった。相手を差別する言葉を使わないようにしたい。

考察 講師の方の体験や考えを聞くことで、誰もが暮らしやすい社会にしていく必要性に気付いたり、自分にできることは何かを考えたりする機会になった。子どもたちから、講師の方の生活や社会のしくみへの疑問がたくさん出たことから、「自分らしい生き方」や「よりよい社会」について考えを深めることができた。

授業実践④-1【総合的な学習の時間】「SDGs 今、わたしにできること」(探究活動)

子どもたちが、ジェンダー平等に関する探究活動をする中で、身の回りで気になった話題やニュース、調べている中で疑問に思ったことを学級全体で取り上げ、ペアトークやサークル対話で話し合う時間を設けた。

体力・運動能力調査の得点表が男女で別なのはなぜか。

体力・運動能力調査の得点表が「なぜ、男女で別なのか」「このままでよいのか」「それとも男女の得点は一緒にすべきなのか」を話し合った。1回目の話し合いでは、男子は「同じ記録なのに男女で得点が違うのは不公平だから、男女一緒の得点表に変えるべき」という意見で、女子は「男と女は体力に差があるから、男女別の方が平等だと思う」という意見で分かれた。『ふり返りジャーナル』に考えを書かせ、それを『わくわくタイム』で共有した。2回目に同じテーマで話し合ったところ、「得点表は男女一緒にした方がよい」という意見が増えた。しかし、この意見に対して、トランスジェンダーのオリンピック選手の記事を調べて、紹介する子どももいた。

【ふり返りジャーナルより】

(A) 男子と女子は体格や体力に違いがあるから、得点表は別がいいと思った。でも、友だちの理由を聞くと、得点表を男女一緒にした方がいいのかな、とも思った。

(B) 最初は、得点表が男女別なのはよくないと思ったけど、話し合っているときに、他の種目比べてソフトボール投げの記録は男子の方がいいことを知り、このまま男女で得点表が分かれている方がいいと思った。

その他にも、「日本の女性議員の割合について」や「男の子の人形遊びについて」、「町で見かけたトイレのマークについて」などをペアトークやサークル対話で話し合いをした。その際も、友だちと互いの考えを聞き合いながら、交流をすることができた。

考察 『わくわくタイム』で友だちの『ふり返りジャーナル』の記述を読んだことで、考えが変わった子や根拠のある理由で説明する子もいた。子どもどうして振り返りを共有して、それをもとに再度話し合うことで、多様な考えを知ったり、自分の考えを多面的・多角的に深めたりする様子がみられた。

授業実践④-2【国語科】「新聞をつくろう」

探究活動で調べたことを一人ずつ新聞にまとめた。子どもたちは、意欲的に新聞づくりにとりくむことができた。

【新聞のテーマ】

- | | | |
|-----------------|-------------------|----------------|
| ・ ALLY について | ・ 家族のかたち | ・ 子どものおもちゃについて |
| ・ ジェンダーギャップについて | ・ 同性の結婚について | ・ 性別と色について |
| ・ 色や差別の歴史的背景 | ・ 男女の制服について | ・ スポーツと性について |
| ・ 性別と職業について | ・ ジェンダー平等を実現するマーク | など |

【A、B が作成した新聞の感想より】

(A) よりよい社会、未来をつくるためにみんなで一緒に考えることが大事。自分にできることは、差別をしないこと。

(B) 人の寝方や口ぐせ、手の器用さがみんな同じではないように、人はそれぞれ違う個性をもっている。

考察 探究活動で、「ジェンダー平等」に関するいろいろなテーマを学級で話題にし、友だちの意見を聞いたことで、子どもたちの中で調べたいことや平等とは何かという考えが明確になっていった。自分なりの、ジェンダー平等とは何かという考えを深めていくことができた。

授業実践④-3【総合的な学習の時間】「SDGs 今、わたしにできること」(外部講師との活動)

探究活動や新聞づくりをしている中で、子どもたちから「インタビューがしたい」「新聞を見てほしい」「一緒に遊びたい」などの声が聞こえてきた。そのため、NPO 法人の方に依頼をして、再度来校してもらうことにした。はじめはサークルになってインタビュー活動をし、次につくった新聞を紹介し合った。講師の方から、新聞の感想やアドバイスをもらったり、こういう社会になってほしいという思いを聞くことができたりし、子どもたちなりに、よりよい社会とは何かということを考えることができた。

【ふり返りジャーナルより】

(A) 性的マイノリティの人たちが苦しまない社会にしたい。もし、友だちや身近な人が性的マイノリティでも、差別をしたり、変だとか言ったりしないで、認められるようになりたい。

(B) みんなが互いの個性を大切に、自由に生きられる社会にしたい。これから性別で決めつけたり、人を差別したりしないようにしたい。

考察 再度、講師の方とコミュニケーションを取る時間を設けたことで、調べてもわからないことを、質問して解決することができた。4月に男どうしで結婚する絵本の読み聞かせをした際に、「気持ち悪い」と嫌悪感を示していたBは、外部講師の生活や社会に対する思いを聞いて「同性婚が認められてもよいのではないか」と考えるようになった。

8 実践の成果と課題

(1) 実態調査の結果

7月に、4月に行ったものと同様の質問紙で実態調査を行った。「ジェンダー」や「LGBTQ+」という言葉について、説明できる子どもが大幅に増えた。「男女は平等だと思いますか」という質問に対する回答は右図の結果となった。理由の記述を見ると、4月の実態調査のときには、男女の平等について質問した際に、クラスの中の男女の仲を基準に考えていた子どもたちが、実践を行った後では、それぞれ調べたことや感じたことをもとに、ジェンダー平等の視点で社会に意識をむけた理由を考えて書くことができていた。

質問「男女は平等だと思いますか」

4月	7月	(人数)
平等	平等	8
	平等でない	10
平等でない	平等	5 (B)
	平等でない	7 (A)

【「平等」と回答した子どもの理由】（30人中13人）

- ・講師さんの今の生活や仕事を聞いたから。(B)
- ・男とか女とか関係なく、ランドセルなど好きな色を選んでも変じゃないから。
- ・男女差別がひどかった昔に比べると、今は平等だと思うから。
- ・男女ともに、できる職業が増えたから。 など

【「平等でない」と回答した子どもの理由】（30人中17人）

- ・日本の政府やリーダーには、女性より男性の方が多から。(A)
- ・日本は少しずつ制服が選べるようになったけど、まだ決められているところがあるから。
- ・女の人は、家事をすることが多いから。 など

【「こんな社会にしたい」（子どもの記述より）】

- ・性的マイノリティの人たちが苦しめない社会 (A)
- ・差別がなく、みんなが自由で、男女も平等な社会 (B)
- ・男女関係なく、一人ひとりが互いに認め合う社会
- ・ALLYがたくさんいる社会 ・誰もが「それでいいんだよ」と言い合える社会 など

【「自分にできること」（子どもの記述より）】

- ・友だちや身近な人が、性的マイノリティであっても、差別をしたり、変だとか言ったりしないように気をつける (A)
- ・性別で決めつけたり、LGBTQ+の人を差別したりしないようにする (B)
- ・「男だから」「女だから」と言わない ・「ALLY」になる
- ・思い込みをなくしていく ・誰にでも優しく、個性を大切にする など

(2)実践のまとめ

授業実践では、外部講師などによる体験活動を通して、男女の体の違いや多様な性についての正しい知識を得ることができた。また、ジェンダー平等をテーマに、子どもたちどうして話し合ったり、実践後の振り返りを共有したりする協働的な活動を通して、多様な意見にふれることができた。こうした活動を繰り返すことで、子ども自身が、無意識にもっていた固定観念に気付いたり、自分の体験や日頃の行動と結びつけて、差別につながる行動をしていないかを振り返って考えたりする機会となり、互いに個性として認め合うことの大切さに気付くようになった。また、多くの子どもが、ジェンダー平等が実現されるためには、性別にとらわれることなく、自分らしい生き方が大切であるということを考えることができた。

一般的に自分の性について悩む子どもが増えるのは10歳ぐらいだと言われている。性に対するとらえ方が広がり、自分らしく生きることの大切さに気付くことができるようになるためには、小学校の授業で「ジェンダー平等教育」の視点を取り入れて行うことが重要と考える。今後も教科にとらわれず、さまざまな場面で、友だちの意見を認め、多面的・多角的な見方で物事を考えられるように、教材や話合いの場を工夫していきたい。そして、自分らしい生き方や、自分らしさを発揮できるよりよい社会について考えることができるような子どもを育てていきたい。

9 啓発活動

(1) 学習会 <適時>

ジェンダー平等教育についての啓発活動を効果的にすすめられるよう、学習会で利用できるプレゼンテーション用資料を作成し、希望する各単組・支部に配付している。有意義な学習会が開催されているとの報告を受けている。

9月の学習会では、男女共同参画社会の実現にむけて、制度面、意識面、そして「ジェンダー平等をめざす教育の実践」について提案し、参加者とともに学習を深めた。意見交換を通して、性別に関係なく個性や能力を發揮できる社会の実現のためには、わたくしたちおとなが自分自身の意識改革を行い、日々の教育活動や家庭生活の中で、子どもたちに自立して生きる力を育むことが大切であると確認し合った。

2月には、青年部・女性部合同学習会を開き、本年度授業実践を行った「ジェンダー平等教育」の成果と課題について男性を含む青年教員とともに、話し合う場を設けている。

(2) 愛知母と女性教職員の会 <10月>

「21世紀をになう子どもたちのために ～心に寄り添い育もう 自分らしく生きていく力を～」のテーマのもと、男性の参加者も交え、「愛知母と女性教職員の会」を開催した。全体会では、本実践を中心とした「ジェンダー平等教育」についての提案を行い、その後、「自己肯定感を高め、個性豊かな子育て、自分育て」と題して、菅生好身さんの講演会を行った。分散会では、提案や講演を受けて「自分らしく生きること」「子どものために保護者として教職員としてできること」というテーマで話し合いを行った。

「自分自身を知り、好きになることが大切」「時と場合によって、いろいろな自分がいることも認める」などの意見が出された。そして、目の前の子どもたちに対して、「一人の人間として接し、歩み寄ることが大切」「いろいろな経験を通して自己決定ができるように見守る」など、保護者として教職員として、どうあるべきかを考える場となった。最後に「これからわたしは！宣言」として、全員がこの会で得た思いを書き、子どもへのかかわり方や、今後の自分の生き方についての決意を固めた。

(3) 「女性部報」、機関紙「愛教」、機関誌「はりみち」に掲載

日々の実践に活用していけるように、愛教組連合のめざすジェンダー平等教育についてのとりくみを全組合員に情宣している。

III 研究のまとめ

小学校4年生を対象にした実践では、無意識にもっていた固定観念に気付いたり、自分の体験や日頃の行動と結びつけて、差別につながる行動をしていないかを振り返って考えたりする機会となった。

また、「学習会」「愛知母と女性教職員の会」の開催や、「女性部報」、機関紙による情宣活動を通して、各単組・支部でも、ジェンダー平等教育の実践の試みがすすめられた。

今後も、性別による固定観念をとりのぞき、自分らしさを發揮させるために、各校の実態や発達段階に応じた年間計画を立案し、授業実践に継続してとりくんでいきたい。また、「男女共同参画社会」の実現にむけて、教育現場でのとりくみ方についての研究を深め、学習する機会を増やしていきたい。